

8. 苗代ごて・えぶり

田植えは弥生時代からあったという見方が広まっているが、古い時期の田植えには、これといった道具がない。田植えの道具は近代に開発されたものを中心となる。

苗代ごて

<A>は「こて」。は「ならし」。こて部分の長さ62cm、幅11cm、柄は135cm。苗代の表面をならす道具で、他地方ではナワシロゴテ、ヘラ、ナラシイタなどと呼ぶ。

明治9年(1876)頃の作とされる『山城丹波農具ノ図』にすでに同工のものが見えるが、明治13年(1880)頃とされる「摂津国各郡農具略図」には1例も見えない。

エブリ

「摂津国各郡農具略図」で苗代ごてに代わる均しに使う道具としては、<C>のエブリ(杵)が3つの郡に出ている。エブリは古代からある古い道具である。大阪平野では苗代ごてを使い始めたのは、明治中期以降かも知れない。

江戸時代の苗代

<D>は『絵本通宝志』に見える近世中期の大阪近郊の苗代。小さな区画の田1面が苗代に充てられているようで、7-の初蒔きの様子を見ても短冊苗代のような形にはしていないようだ。苗代の真中に棒を立てて縄をはり、鳴子を吊るして雀を追っている。右下にはかかし。「鳥をどし」と書いてあって、棒の3脚に蓑と笠を被せている。

苗代づくり

苗代は冬の間に牛とカラスキですきかえす。凍てさせると土塊がバラバラになる。天長節(4月29日)~八十八夜(5月初め)に共同で苗代作りをした。共同作業は二カメイチュウ防除のため。また水入れの加減から(千里丘)。

苗の成長が悪いと下肥の薄めたものをやる。のち硫安を薄めたものを使った。苗取りの3日前にやると、根付きがいい。

4月末~5月初めに播いて35日苗で植える。40日苗は老化していて駄目だ(鶴野)。

田植えと水

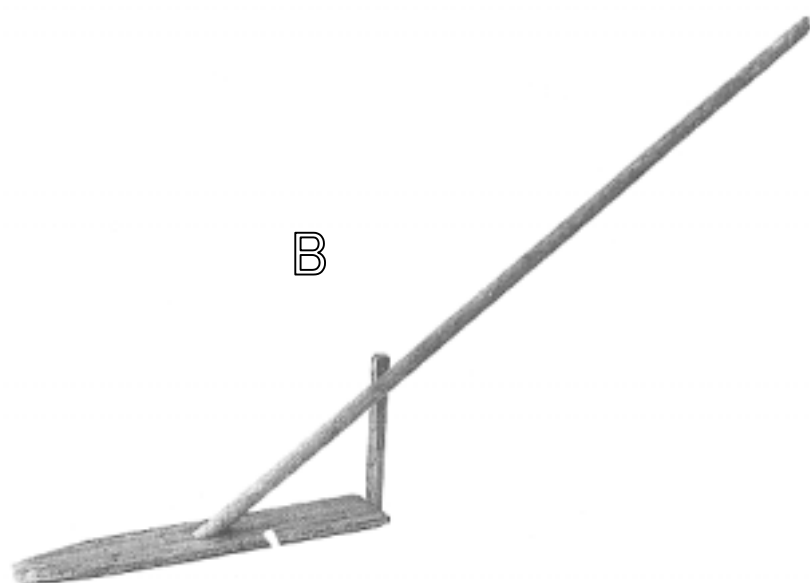
昔は五月雨(梅雨)の雨が頼りだから、旧暦で5月、新暦で6月が田植えの季節。

摂津市域では、6月初め(鶴野)。6月15日~20日(一津屋)。6月10日~20日(鳥飼中)。夏至3日前(6月19日前後、千里丘)。6月15日~18日、22日~23日(千里丘東)。

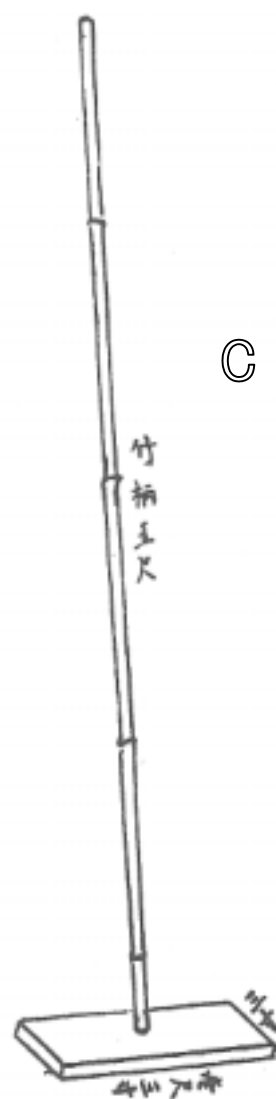
八丁池から1回だけ水が回ってくる。その時に合わせて田植えをした(千里丘東)。雨が少ないので池の水が頼り。池の水は相談で決め上流から田植えした(千里丘)。



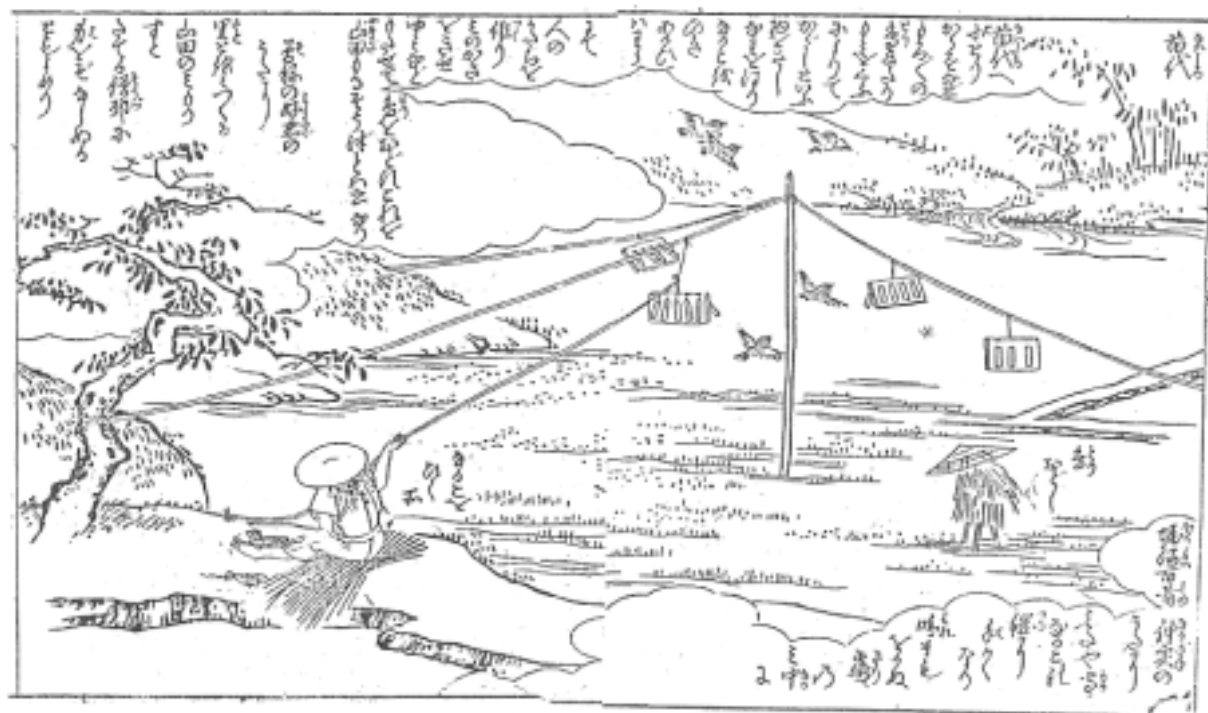
A



B



C



D